

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092300033		
法人名	長野県厚生農業協同組合連合会		
事業所名	富士見高原病院 グループホームやまゆり		
所在地	長野県諏訪郡富士見町富士見3796-5		
自己評価作成日	平成22年7月17日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「あるがままに、在るがままに…」を基本姿勢に、ここで暮らす入居者に対し認知症であっても豊かに暮らせるように支援しています。日々のケアの中で、迷うとき、戸惑うときは職員一同が理念に立ち戻るように努めています。
日々の生活活動は、食事作り、掃除、洗濯、畑作りを中心に動いていますが、これらの生活活動が、入居者の方々にとって「訓練」のための活動にならないように、その日の心身の状態に合わせて行っています。地域との関わりのなかでは、ホーム近隣の住民の方々との交流を第一に考えています。また、入居者の「あ～したい」「こうしたい」の希望になるべく沿えるよう支援体制をとっています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092300033&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町として、また当法人としても最初のグループホームであり、新規事業として地域から注目されるホームである。準備委員として関わってきた施設長を中心に、経験豊かな職員が一体となり、これまでの介護経験を活かした支援に取り組み2年目となる。今回初めての外部評価を受けた。地域密着型サービスの意義を踏まえて、ホームの理念として掲げた、利用者の「あるがままに」を見つめ、さらに地域住民との関係性を大切に、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう努力している。また、町としても初めてのグループホームのために、民生委員や保健指導員等の見学や研修等の場として活用され、ホームとしても積極的に受け入れ、認知症の理解や認知症ケアの在り方等を地域に発信していく役割も担い、今後に期待できるホームである。また、母体である富士見高原病院や関連施設等の協力や連携も利用者ご家族の安心を支えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年9月21日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『あるがままに、在るがままに・・・』の理念が職員全員に共有されており、日々のケアで、迷ったり、戸惑うときに、理念に立ち返ることができている。	法人として初のグループホーム立ち上げ時より関わってきた施設長を中心に基本理念を明文化し掲げ、利用者それぞれのあるがままを慈しみ守っていく支援を全職員で共有し、ケア場面での理念の具現化について話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループの積極的な受け入れや、地域の子どもたちが気軽に立ち寄れるようなこともある。また、地域の方々野菜や花の差し入れをもってきてくれる。	開所後2年目ではあるが、地域の個人・グループボランティアや町保健補導員・傾聴ボランティア等の見学や研修の受け入れを積極的に行い、近隣住民や子ども達との交流を大切にするとともに、区長・民生委員との連携を通して地域とのつながりを持つ努力をされている。	利用者が富士見ヶ丘地区の一員として日常的に地域と繋がって暮らし続けて行けるよう、地域の情報を得る努力、必要とされる活動や役割への参加、ご近所付き合い等が、普段の暮らしの中で双方向の交流ができるよう、更なる取り組みを望みます。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がその知識を活かし、諏訪地域において『認知症ケアについて』の講師を行ったり、実習生の受け入れも始めた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね年に4回開催し、内容としては、ホームでの活動状況を報告している。その際には、ご家族の意見や要望を取り入れ、今後のホーム作りに活かしている。	概ね2ヶ月に1回、利用者・家族・町関係者、区長や民生委員の方々の参加を頂き開催され、現状・活動報告や今後に向けた話し合いが持たれている。その中で出された意見を基に、家族会の発足も昨年夏に実現している。今回の外部評価結果の報告や話し合いも予定している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を中心として、年2回の交流会も参加して頂いている。その機会を活かして、お互いの意見交換の場となっている。	会議には町担当者や地域包括支援センター・諏訪広域連合の担当者等の出席を頂いている。欠席の場合は報告を行い、双方の情報や意見交換の場となっている。また、町関係者・機関等の見学や研修を受け入れ、認知症ケアの理解や協力関係を築かれている。	

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、基本姿勢として『身体拘束』は行いません。 ただし、入居者によっては身の危険性に対するリスクの説明は行っています。	身体拘束をしないケアについて、職員研修等で周知している。現在は、入居間もない利用者の状況や地域環境上の配慮による玄関の施錠をしているが、利用者の、その時々への傾向や思いに添いながら見守りや外出支援を行う等の、抑制感のないケアに取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が中心となって、ホーム会やカンファレンス会議の時間を使い、ミニ勉強会を実施している。 また、管理者は職員の心身のストレスに配慮し気持ちよく働ける職場作りを目指しています。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、入居者の方々に権利擁護に関する対象者はいません。 そのため、職員に対して、成年後見制度に関する勉強会は実施していません。しかし、今後の必要性によっては、学ぶ機会を作りたいと思っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をとって行っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者やご家族に対して気軽に意見や要望が言えるような雰囲気作りを大切にしています。そこで出された意見や要望については、速やかに対処できるようにしています。	ホーム・公的機関等の相談苦情対応窓口を明示すると共に、気軽に意見や要望を表せるよう関係づくりを大切にしている。運営推進会議には殆どのご家族の出席があり、また家族会や面会時を有効に活用し、意向の把握に取り組み運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会やカンファレンス会議の場を通じたり、必要によっては、毎日の申し送りの時間を使って職員の気持ちや、アイデアを運営に取り入れています。	開所後2年目であり、施設長・職員は一体となり運営に取り組んで来られ、言いやすい関係がつけられている。職員の目標マネジメントを通して向上心を大切にすると共に、ホーム会や年3回の職員との面接の中で個々の意見を把握し、運営に取り入れている。	

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい職場の環境作りや、職員の希望に配慮した「勤務表」の作成を行っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の『やる気』に配慮し外部の研修等のスキルアップの機会も作っています。他に、院内で行われる研修会の参加も促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所の老健(3ヶ所)の職員の交流や勉強会の参加を積極的に行っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の持つ、世界を大切にすることを基本方針とし、初めは『直さない・正さない』事を念頭に置いています。日々のケアの中で、本人の心身の状態や、想いをくみ取るよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームがご家族にとっても、『第2の家』になるような関係作りに配慮しています。アットホームな雰囲気の中から、家族の抱える悩みや苦勞を分かち合えるよう職員一同努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の率直な声に対し、スピーディーに対応することに努めていますが、その内容によっては家族と話し合いの場を持つように心がけています。		

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目標としては、日々の生活活動も含め、日々の暮らしの中で『持ちつ、持たれつ』の関係を目指していますが、時と場合によっては、支援する人・される人の力関係になっていることは、否めません。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへの来所時、運営推進会議、家族会の場を通じ、本人の日頃の状態を報告・相談しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームは、家族の方・地域の方々に対し、オープンなホームを目指しています。こうした中で、入居者の馴染みな人の交流ができるよう配慮しています。	ご家族や知人等との電話や手紙のやり取りの支援や、図書館へ本を借りに行く、実家を見に行く、レストランでの食事を楽しむ等の、利用者のこれまでの馴染みの人や場所の関係を継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの、想いや時間を尊重していません。その中で、一人が孤立することがないように、コミュニケーションや関わり方の充実により、共に暮らしを楽しめるよう心がけています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ、退所した入居者はいませんが、今後退所することがあっても、入居者や家族の方々にとって、ここが『第2の家』になってくれるよう努めていきます。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの、想いや希望に沿った暮らしができるよう配慮していますが、時と場合によっては、完全には汲み取る事はできていません。	センター方式を活用し、利用者の生活歴や暮らしの希望・思い等の把握に努めている。また、アプローチとして担当制を取り入れ、個別の関心を寄せる中で気づきや情報を基に検討・共有を行う取り組みがなされている。	

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の培った人生をできる限り把握に基づいた関わり方を心がけています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報にはとらわれず、ホームで共に生活する中で見えてきた本人の力を活かせるような関わりをしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、現行のケアプランの進捗状況や評価を行っています。また、カンファレンスの中で、今のプランがその人に則しているか検討しています。	介護計画作成担当者が中心となり計画書が作成され、毎月行われるカンファレンスでチームの意見を反映し、評価・見直しへと繋げている。ご家族への説明もなされているが、今以上にご家族等と、本人本位で十分に話し合い、意向が反映されるよう望みます。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の観察記録・身体状況に関する記録を中心に入居者のケアに繋げています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者に関する必要な事柄に対し、院内のリハビリや、薬剤師・ドクターの支援を頂いています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員さんからは、開設当初からホームの環境面に対しての、ご協力を頂いています。また、地域のボランティアグループの活動の場として提供しています。		

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当ホームの経営母体である、富士見高原病院の全面バックアップを受けています。</p>	<p>本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的にはご家族同行の受診を依頼しているが、ご家族の状況により臨機応変に対応をしている。ホームの経営母体である富士見高原病院を中心に近隣の歯科医療機関との協力体制が取られ適切な受診を支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>当ホームには1名の准看護師がいますが、他にも経営母体である、富士見高原病院の全面バックアップを受けています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>当ホームの経営母体である、富士見高原病院の全面バックアップを受けています。介護支援専門員が中心となって、主治医と連絡を密に取り、その入居者の方の方向性を決めていきます。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当ホームの方針として、今のところ「看取り」は行いませんが、万が一のときは家族と十分な話し合いの場を持ち、方向を決めていきます。その際には、富士見高原病院をはじめ、関連施設とのネットワークを活かした対応を検討していきます。</p>	<p>ホームの方針として、看取りは行わないことを、ご家族等に説明し理解を頂いている。昨年一人の利用者の突然の体調悪化を体験し、主治医の協力・指導の基に看送った経緯がある。また法人として、中長期計画の中で終末期を視野に入れた構想が検討中であることを伺った。</p>	<p>突然発生しうる重度化や終末期に対して、早い段階でご家族と十分話し合いを行うと共に、利用者の意向を汲み取り、チーム内で方針を共有し、現在支援出来る体制や職員力を整えて、変化の度に見極めを積み重ねて行かれるよう希望します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>当ホームで定めている「緊急時のマニュアル」に沿った対応を行っています。また年1回は、「救急救命講習」を実施していますが、今年はまだ行っていません。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>当ホームで定めている「防災マニュアル」に沿った対応を行う予定ですが、地域住民との災害協定は結べていません。</p>	<p>消防法に基づき、災害対策マニュアルの整備、スプリンクラー等の設置、年2回の町消防署の協力・指導の基に避難訓練等を実施され、非常災害に備えている。夜間を想定した訓練や、地域消防団の協力を頂く等、利用者の安全・安心の確保へ取り組まれている。</p>	<p>何時起こるか分からない様々な災害を具体的に想定し、区や近隣住民・施設等の理解・参加や協力体制が築かれるよう継続的な取り組みを望みます。</p>

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、本人の想いを察するケアを心がけ、「いいよ・嫌だ」の意志を汲み取っていますが、日々の暮らしの中で、時と場合によっては不自由なこともあるかと思っています。	ケアの在り方に迷った時等は、常に理念に基づいているか、振り返りを行い、あるがままの利用者の思いや誇り等を大切に支援され、自己評価にあるような、まれに不十分な場面が発生することも視野に入れ、意識し、利用者を尊重し敬意を払った対応に取り組まれている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを察し、希望を叶えるべきケアを心がけていますが、時と場合によっては、不自由な事もあるかと思っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の持つ「時間の流れ」に沿った暮らしができるよう努めています。また、生活リズムの観点から、職員主導の「時間の流れ」を求める場合も、さりげない誘導を心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在の当ホームにおける入居者の方々は、身だしなみやお洒落に対し特別な拘りはありませんが、ご家族の希望に沿った対応は行っています。その一方で、「今日はパジャマでいい」と強く望む入居者に対しては、ご本人の意向を重視しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの全ては、入居者の希望を取り入れていませんが、日々の暮らしの中で、「食べたい物」の声を拾いあげメニューに反映しています。また、旬な食材、季節に即したメニュー、地域の郷土食も、時として取り入れています。	訪問した日は栗の差し入れがあり、何にするか話題となっていた。利用者の得意力を活かした畑づくり・調理や盛り付け・配膳等を利用者と共に行い、食卓を囲まれている。食事委員を中心にJA西山店への買い物や外食の楽しみ等も適宜取り入れ、楽しみ支援が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームの毎食の献立は、基本的には、富士見高原病院の管理栄養士が作成したメニュー表に基づいて作られています。また、必要な入居者には、1日の食事量・水分量の観察及び記録を行っています。		

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、口腔ケアは入居者全員行っています。上手にケアできない方々が多いですが、時間をかけ丁寧なケアが行われています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には、毎食後の排泄誘導を実施していますが、その入居者によっては、その方の排泄パターンに即したケアの実践ができています。また、全入居者に対し羞恥心に配慮した声かけもできていると思っています。	現在は全員がトイレで排泄されている。パット等の使用や選択も個別の対応がなされている。自立の利用者は遠くからさりげなく見守り、声かけや支援が必要な利用者に対しても羞恥心やプライバシー等に配慮し、排泄パターンに副った支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	准看護師が中心となり、職員全員で入居者の排便間隔・便の性状に注意を払っています。また、必要に応じ、申し送りの時間を利用し柔軟な対応をしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としていますが、希望者や発汗の多い入居者の方に対しては、その限りではありません。入浴拒否の強い入居者の方には曜日を固定せず柔軟な対応をしています。	基本的には週2回、入浴日を決めて支援しているが、二人入浴や夜間の入浴、入浴を嫌がる利用者へはタイミングに合わせた柔軟な入浴支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に、午睡やその日の体調に併せ休息がとれるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	准看護師が中心となり、薬の管理を行っています。入居者一人ひとりの専用ケースで薬の管理を行っています。服薬時は、飲み込むまでの確認を行っています。		

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の培ってきた人生を参考に、また、ホームの暮らしの中で見えてきた「得意」・「不得意」を配慮して、本人の気が向くときに、入居者と相談し行っています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、入居者一人ひとりの希望に沿う形で外出等を行いたいとは思っていますが、時と場合によっては困難な時もあります。しかし、近所への買い物やドライブ、入居者の声から拾い上げたバスハイクなど定期的実施しています。	地域のお店での買い物や気分転換のドライブ・初詣・おっこう祭り等、地域の行事や生活に副った外出を支援すると共に、利用者の希望や職員の声も取り入れ共に楽しむ、様々な外出支援が行われている。今後、回転ずしや日帰り旅行等の計画もあることを伺った。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームの運営主体の方針により、現金をホーム内に置くことが難しいため現金の扱いはしていません。ただし、欲しい物が買えるように、近所のスーパーにて口座引き落としの体制はとっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、入居者からの、電話や手紙等の希望は聞かれませんが、先方からの電話やお便り(返信)の対応できています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者、ご家族、職員、お客さん、全ての方々に「気持ちよい環境」を意識しての環境作りを行っています。	木材の温かさが感じられる新築のホームである。間接照明や採光に配慮し、広すぎず狭すぎず、程よい共用空間となっており、対面式の台所で職員と食事の準備をする人、テレビを見る人等、ゆったりと過ごされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間(居場所)や時間を持つような配慮はしています。		

外部評価結果(GHやまゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内への私的持ち物に関しては、重要事項説明書で禁止されている物以外のものは、ご家族、本人と相談しながら、居心地のよい居室作りを心がけています。	利用者の同意の基に、表札を掲げた居室は、床暖房の設備、ベッド・箆笥・椅子は備え付けとなっている。お位牌や家族の写真等が置かれ居心地良さそうな居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その入居者の行動障害や身体状況に合わせ、安全面に配慮しています。		